

6月9日


本校独自版

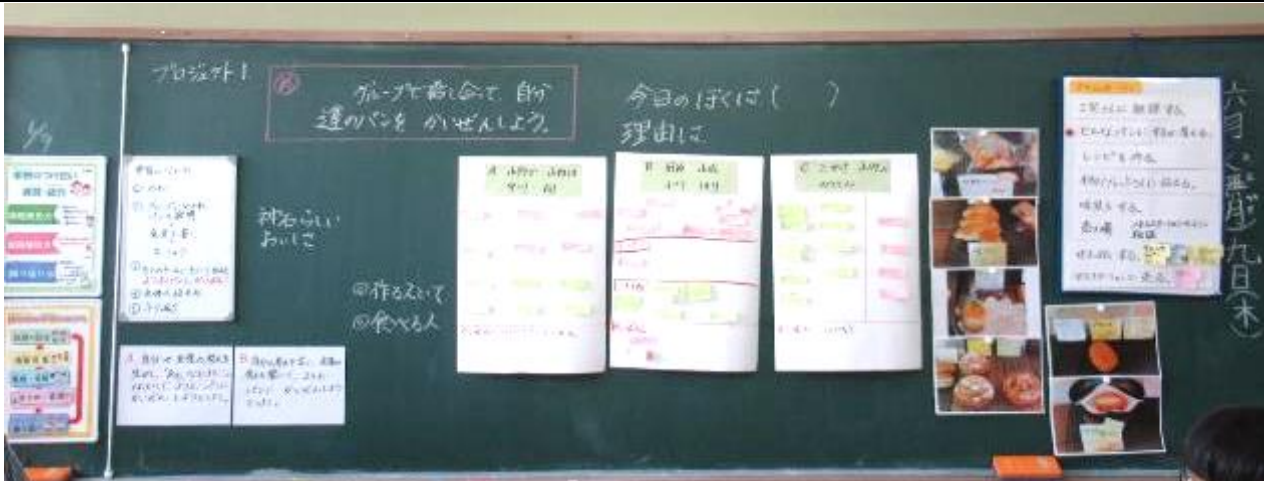
校内研修会 (第4学年 総合的な学習の時間)

「182ステーションで、いいもの売り隊」

今年度2回目の校内授業研。提案して下さった4年生の先生、ありがとうございました。
 今回は、初めて藤本勇二先生に來校していただき、直接参観してもらって、指導を受けました。

<研究協議より>

課題解決・協働の様子	個の姿
 <div data-bbox="518 795 635 1079" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 時間の関係で、 全体協議はなし。 </div>	<p>A児 ジャムをどれくらい入れたらいいのか悩んでいた。自分達のでいいと結論づけた。 自己評価B：あなるほどと納得できなかった。</p> <p>B児 ペっちゃんこになるじゃん、興味をもって取り組む。チョコペンすぐなくなるんよ。意見を分類してやっていた。リードしていた。</p> <p>C児 パンを見せながら説明できた。 「見せて」とアドバイスを考えようとしていた。</p> <p>D児 6cmにこだわっていた。顔の表情は難しかった。分からない→人のせいになった。</p> <p>E児 責任をもって伝えようとしていた。</p> <p>F児 話し合いをリードしていた。フォローしあっていた。</p> <p>G児 買う人の視点に立ち、付箋を書いていた。アイデアをたくさんもらえた。</p> <p>H児 自分たちの説明で栄養のことを言っていないことに気づく。</p>
<p>J児 ムードメーカー話し合いを進めていく。山内くんのことを大切に、付箋を見せるなどの姿が見られた。 L児に関わろうとしていた。</p> <p>K児 絵と作りたいものが違う。軌道修正していた。 緑(栄養素)はどうするん?と話し合いを進めた。</p> <p>L児 J児はL児にかかわろうとしていた。仲間に入ることができ、栄養のバランスについて忘れず説明していたことから、みんなから褒められる場面があった。</p>	



藤本先生の講演より

3・4年生は 夢を描く総合

子どもにもっと任せてもよい。

これまでは、どうしても教師の都合で子どもを動かすことが多かった。野に放つ努力をする。失敗しても OK
「書きたい」と言えば、書かせる時間をとってもよかった。

でも、時間は湯水のようにはない。1年間どれくらい総合的な学習の時間があるのか、大人の事情を全部説明して、時間管理を子どもと共にするとよい。

何に何時間費やすのか、判断のものさしを話し合って決めると決着しやすい。カウントダウンしてもよい。その文脈に合わせて「**教師の出**」を考える。

「足場かけ」という考え

中学年の1学期は足場が必要。問題解決の道筋をつけていく。

少しずつ足場を外していく

身につけたい資質・能力のカードや探究的な学習の流れを示すカードなどで、見える化し、見通しを持ちやすくしている。←これも足場かけの一つ。

交流しやすい環境

床でしゃべる。そこで探究が成立する。(カジュアルな話し合い)

高延指導教諭は意識的に言葉を使い分けている。

↓

探究を成立させることばのリスト 深い学びに近づくのに必要なことば

「たしかに」

「それもいいかも」

「いいことあるかも」

「いいねえ」

「いいことっぱいあるね」

ジグソー学習

責任感をもたせる→もとのグループに帰ったとき、伝えないといけない。

いろいろな見方考え方に触れることができる。(そういう見方もあるんだな)

考えや意見などかきまぜることが大事。(地域に出るもよし、専門家に会うもよし、尾道の小学校との交流もよし)

どんな学びができるかな?と自覚させる

○ルーブリック・・・「これっていい?」と子どもにも聞いてみる。

学習調整力—自己調整力

○ジグソー形式の話し合い・・・これっていい?と子どもにも聞いてみる。

↓

技法というのは、意味もなくやらされていると力にならない。

なんとなくやるのではなく、意味がわかって自立していかないといけない。

環境づくり

正規の時間以外でも児童の活動につながるように

子どもたちの環境をつくる。教室にあるものは、必然性のあるものか。